

第三者評価結果 公表シート

(このシートに書かれている内容は、そのまま富山県福祉情報システムにおいて公表されます。)

事業所名	花椿きらめき
第三者評価機関名	富山県社会福祉協議会
評価実施期間	令和 元年 10月 3日(契約日)～ 令和 年 月 日(評価結果確定日)
過去受審回数 (前回の受審時期)	回 (平成 年度)

1. 概評

◇ 特に評価の高い点

【職員主体で組織的に取り組む中期経営計画の見直し・策定】

・今年度、法人組織である人材育成委員会へ事業所代表1名が参加し、来年度からの第2期中期経営計画書の検討及び策定が進んでいる。「中期経営計画書見直しアンケート」を全職員へ実施し、結果を数値化し考察した内容を掲示している。職員はアンケートに参加し、全体的な結果がフィードバックされることで次期計画を身近に感じている。計画の実施においては、職員の参画・理解のもとに進められる観点から、主体者意識が高まりより具体的な計画実践につながっている。

【見やすく、利用しやすいツールによる情報公開と発信】

・法人本部室が中心となってホームページのリニューアルが令和元年10月に実施されている。そこには、各事業所からのタイムリーなニュースを発信、法人事業計画や収支状況など多様な情報を公開している。パンフレットも、各事業所やサービス内容についてデザイン・色彩を区分するなど配慮されて見やすい。上記に加え、中期経営計画書も含めた資料は、どれも「基本理念」「基本方針」「法人の特徴」「サービス内容」が紹介され、利用者及び保護者、職員、地域住民、関係機関など情報を得ようとする幅広い層に対して、分かりやすく伝える意図が随所に見受けられる。

【人材の確保につなげる学生支援の工夫】

・福祉サービスに関わる学生など研修環境の提供及び育成を、施設長はじめ職員は事業所全体で使命と捉えマニュアルのもと適切な指導に取り組んでいる。また、今年度は法人で特徴的な取り組みとして進めている「SDS(自己発覚支援制度)」の制度を実習生に説明し、実習の成果を発表する場としての活用を提案しサポートすることで、個人とチームで3事例の参加が実現し達成感につながっている。また、実習やボランティアで障害福祉に興味や関心を持った学生などにはアルバイト就労を提案し、その取り組みを通して採用に結び付いた事例がある。

◇ 改善を求められる点

【標準的な福祉サービスの充実に向けての整備】

・サービスの質の向上に向けて、個別支援計画に利用者の得意なことや好きなことをアセスメントし、支援計画作成や目標達成に向けてのサービス実践を目指している。今後は、利用者の基本的な日常生活や生活習慣などの支援について、最低行うべき手順を文書化し、全ての職員が共通の知識を持ち支援が提供できるように、標準的なサービスマニュアルの整備が望まれる。

【利用者や保護者に分かりやすい情報提供と選択の仕組み】

・社会に向けて、法人における福祉サービスの情報公開・発信の取り組みに工夫が見られるが、サービス主体である利用者及び保護者などに対するサービス利用や移行などの情報提供については、現行の資料では十分に理解されているとは言い難い。今後は、対象を利用者やその保護者に絞り、サービス説明に使用する資料には、写真やイラストなどを取り入れ、今年度研修で取り組んだ「合理的配慮」の視点を活かし、それらの資料を活用しながらサービス選択や自己決定が利用者本位に実施されることが望まれる。

3. 各評価項目にかかる第三者評価結果(別紙)

4. 第三者評価結果に対する事業者のコメント